

平成29年度 ワークセンター夢の樹就労移行支援 事業実績報告書

1 総括

今年度開始当初利用者8名のうち4名が就職し、過去3年と同じ就職者数となった。また、開設以降に就職した方について、今年度の離職者はなく、概ね安定して就労が継続できているといえる。定着支援については、29年度新たに過去すべての就労者についての追跡調査を実施した。就職がゴールではなく、スタートであり、長く働くことへの支援の重要性の再認識の上に行なった事業であった。

一人ひとりのマッチングを大切に、就職のみでなく定着を重要と考えるのは開設以来の方針であるが、29年度もこの方針に従い、前年度までの取り組みを継続した。安定した就職者数と定着率の高水準の維持はその成果といえるが、求人の状況や求められる人材は年々変化しており、また職場における定着支援の質も変化していくことから、情報収集と変化に柔軟に対応していく事業所の姿勢が必要と感じている。

しかし、就職者の輩出は、利用者減による運営費の収入減少に直結する。新たな利用者の安定確保のための方策が必要となるが、これもまた開設以降の課題である。29年度についても7名という目標人数は達成できたが、10名定員の未達成は数年継続しており、安定確保のための対策については引き続き検討を要する。

2 事業概要

- 1) 施設名 ワークセンター夢の樹
- 2) 事業種別 就労移行支援
- 3) 所在地 東京都小平市大沼町2-1-3
- 4) 運営主体 社会福祉法人 未来
- 5) 利用定員 10名
- 6) 利用現員 6名（平成30年3月31日現在）
- 7) 法人認可年月日 平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日 平成20年 4月 1日
- 9) 職員 6名（平成30年3月31日現在）
 管理者 1名
 サービス管理責任者 1名（兼務：常勤換算1.0）
 職業指導員 1名（常勤換算1.0）
 生活支援員 2名（常勤換算1.3）
 就労支援員 1名

- 3 基本理念 一人ひとりの自己実現。
 互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築。
 安心と希望のもてる生活。

- 4 基本方針 個々に合った活動・実践的訓練
 情報、訓練方法等の共有
 計画的支援（計画→実行→評価→計画の見直し→実行）
 訓練・相談・求職活動の一体的支援

5 実施事業（活動内容）

- 1) 就労支援事業
 銀の皿メニュー表帳合作業
 銀の皿はし・しょうゆセット作り
 銀の皿しゃもじセット作り

切手の仕分け作業
受注作業（ダイレクトメール等）

2) 外部実習

図書館実習
市役所実習
市役所販売
多摩済生園清掃実習

3) 企業見学

株式会社長谷川ソーシャルワークス
株式会社ベネッセビジネスメイト

6 日 課

職員打ち合わせ、作業準備	8 : 3 0 ~	9 : 0 0
朝礼、体操、唱和、あいさつ練習	9 : 0 0 ~	9 : 1 5
清掃	9 : 1 5 ~	9 : 3 0
訓練プログラム（作業）	9 : 3 0 ~	1 2 : 0 0
休憩	1 2 : 0 0 ~	1 3 : 0 0
昼礼	1 3 : 0 0 ~	1 3 : 0 5
訓練プログラム	1 3 : 0 5 ~	1 4 : 2 0
休憩	1 4 : 2 0 ~	1 4 : 3 0
訓練プログラム	1 4 : 3 0 ~	1 6 : 2 0
清掃、日誌記入、終礼	1 6 : 2 0 ~	1 7 : 0 0
職員打ち合わせ	1 7 : 0 0 ~	1 7 : 3 0

7 重点課題・目標に対する成果、課題

1) 就職活動の充実

(1) 個々の状況に応じた計画的な支援

利用者の個々の強み、苦手なこと、生活状況など詳細なアセスメントを実施し、これに基づき個別の状況に応じた訓練計画や就職までのスケールマップの作成を行う。訓練の進み具合や利用者本人の意向の変化などに臨機応変に対応するため、月に1回以上面談を行い、計画の進捗状況の評価や必要に応じて見直しを行う。

(2) 丁寧なマッチングによる求職活動

就業前に仕事内容、職場環境、通勤経路、休暇また求められる社員像などの会社の情報を詳しく利用者に伝えるとともに、利用者の状況や希望、留意事項などを会社に伝達し、相互の理解を深めたうえで就業を開始できるようにする。また、その際これらの情報を基本項目で整理した一覧表を活用し、理解しやすいように工夫を行う。

【成果と課題】

(1) 利用開始時のアセスメントに加え、月1回以上の個別面談から利用者個々の目標を設定し、目標に向けた訓練と評価、また、必要に応じて面談を行い、目標設定の変更を繰り返し行った。就労に必要な技能や連絡、報告、相談などにおいて、全般的に向上が見られ、今年度の就職者は4名となり、20年度の開設以降の累計就職者数は49名となった。

(2) 就職者4名について、面接や実習開始時に本人と就業先との情報交換を丁寧に行い、相互の理解を深めた。年度末において4名とも順調に就業が継続できている。下半期に求職活動マッチングシートを作成し、労働条件や通勤経路、職場環境などの会社の情報とその会社に対する利用者の評価を記載した。求人サイドと求職者の条件

の確認に活用したが、確認が容易になり支援に役立てることが出来た。また、活用していく中で、書式の改善点も見えてきており、次年度実施したい。

2) 定着支援の充実

(1) 役割分担による効率的な支援

原則として就職後6か月間は当事業所が定着支援を行い、6か月を経過した後、その支援を就労支援センターに引き継ぐ。定着支援期間は月に1回以上、会社訪問や電話連絡によって本人及び勤務先から就業の状況等について聴取するほか、必要に応じて相談に応じる。ただし、6か月を経過しても就業状況が安定していない利用者については、課題解決に至るまでその支援を当事業所が行う。

(2) 長期就労者の情報共有

就労支援センターに引継ぎを行った後1年以上経過した長期就職者についての状況を把握していないことがあったが、問題発生時の迅速な対応や当事業所の就職活動や定着支援の評価を行ううえで、長期就労者の状況把握は必要な事項と考え、就労支援センターへ積極的に情報の提供を働きかける。状況把握を行ったうえで就労支援センターと連携し、必要に応じて迅速な定着支援が行えるようにする。

【成果と課題】

- (1) 支援の引き継ぎ対象となる就職後6か月を経過した方は、4名であったが、内2名は予定通り就労支援センターへ引継ぎを行なった。残り2名は8月に就職し、2月に引き継ぎの時期を迎えたが、本人の状況や雇用者側の希望から、本人をよく知る当事業所が支援を継続することとした。
- (2) 平成20年度開設以降から今年度末までに就職した方は49名おり、その内就労支援センターへ引き継ぎ後1年以上経過した就職者が42名、引き継ぎ後1年未満の就職者が3名、引継ぎ前の方が4名である。就労支援センターに引き継ぎ後1年以上経過した方の現在の状況を聴取したところ、40名は就業中または障害福祉サービスの日中活動事業所を利用している。残りの2名に就労の意志があるかどうかの確認を行なったが、2名とも就労の意志はないとのことであった。今後、追跡調査を年1回実施し、調査結果を一覧で記録化するとともに、支援が必要かの有無を確認していく。

引き継ぎ後1年以上経過した方の内訳

・就業を継続している方	26名
・離職後に別の企業に就職した方	7名
・離職後に就労継続支援B型を利用している方	7名
・在宅で過ごしている方	2名

3) 利用者の確保

- (1) バウムからのステップアップ利用者の受け入れを計画的に実施する。
- (2) 近隣地域（東村山市・西東京市等）の就労継続支援B型事業所を訪問するなどして、当事業所の説明を行ったうえ、利用希望者の募集を行う。希望者には一定期間の実習を行い、利用基準の適合について判断を行う。
- (3) 就労支援センターからの紹介を積極的に受け入れる。
- (4) 特別支援学校卒業生の進路担当教諭に事業の説明を行い、進路先の一つとしての認識を深めるよう働きかける。

【成果と課題】

- (1) ～ (4)

利用者確保のため行なった活動の結果は以下の通りである。

- ・バウムからステップアップ 0名
- ・近隣の就労継続支援B型事業所 1名
- ・就労支援センターからの紹介 1名
- ・特別支援学校からの紹介 0名

来年度4月から利用者7名を予定しており、収支バランスの均衡する最低限の人数は確保できた。引き続き利用者の募集が必要である。

8 その他の課題・目標

1) 就労継続支援B型事業利用希望者のアセスメントの実施

午前は作業への参加、午後は漢字テスト、電卓を使った計算問題、ボールペン組み立て作業、パソコン操作の4項目を実施し、その達成具合によって適性の評価を行う。

【成果と課題】

今年度、就労継続支援B型事業利用希望者のアセスメントを2名実施した。軽作業や漢字テスト、計算問題を実施し、作業能力や持続性、また報告、連絡、相談等のコミュニケーション能力の評価を行った。評価結果は2名とも就労継続支援B型事業の利用が適当となった。

8 開所状況

- 1) 開所期間 自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日
- 2) 開所日数 (1) 週開所日数 5日間
(2) 開所時間 午前9時～午後5時
(3) 年間延開所日数 242日間
(4) 平均活動時間 8時間

9 利用状況

- 1) 利用者延人員 1,800人(前年度 1,585人)
- 2) 1日平均利用人員 7.4人(前年度 6.5人)
- 3) 体験実習者延人員 31人(前年度 94人)
- 4) 1日平均実習人員 1.7人(前年度 2.5人)
- 5) 実習者実人員 8人(前年度 14人)
- 6) 企業内実習者延人員 140人(前年度 187人)
- 7) 就労継続支援B型アセスメント利用人員 2人(前年度 10人)

10 利用者状況(平成30年3月31日現在)

1) 年齢

- | | |
|------------|----|
| 18歳以上20歳未満 | 2名 |
| 20歳以上30歳未満 | 2名 |
| 40歳以上50歳未満 | 1名 |
| 50歳以上60歳未満 | 1名 |

2) 障害の状況

- | | |
|-----------|----|
| 愛の手帳4度 | 3名 |
| 療育手帳C | 1名 |
| 身体障害者手帳2級 | 1名 |
| 身体障害者手帳3級 | 1名 |

3) 通所手段

- | | |
|--------|----|
| 交通機関利用 | 4名 |
| 徒歩等 | 2名 |

4) 居住状況
管内居住 3名 管内居住 3名

5) 性別
男性 5名 女性 1名

1.1 利用者工賃

平均工賃 1人 月額 : 10,398円 (前年度 7,506円)
日給 : 607円 (前年度 417円)

1.2 就労者の状況・ステップアップの状況等

今年度就労者 . . . 4名 (内離職者0名)
今年度ステップアップ者 . . . 1名 (内就職者0名)

1.3 就労継続支援B型アセスメント実施状況

今年度アセスメント者 . . . 2名 (内就労継続支援B型適当者2名)

1.4 環境の整備

職員、利用者が毎日、室内や建物周辺の清掃を実施し、年間を通して清潔な環境を保つことができた。

1.5 防災

災害時避難訓練を年3回実施した。